

# 注 意 報

長崎県病虫害防除所長

平成29年度病虫害発生予察 注意報第1号

## いちご ハダニ類 (ナミハダニ、カンザワハダニ)

- 1. 発生地域 (対象地域)                    県下全域
- 2. 発生程度                                    多
- 3. 注意報発令の根拠

- (1) 本虫については、平成29年2月1日付け平成28年度病虫害発生予察注意報第6号において防除の徹底を啓発してきたが、4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は17.5%(平成7.6%)、発生圃場率59.3%(平成44.1%)と平成より高かった(図1、2)。今後、圃場内での発生拡大や育苗床への持ち込みの恐れがある。
- (2) 気象予報(福岡管区气象台、平成29年4月13日発表)によると、向こう1か月の気温は平成より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

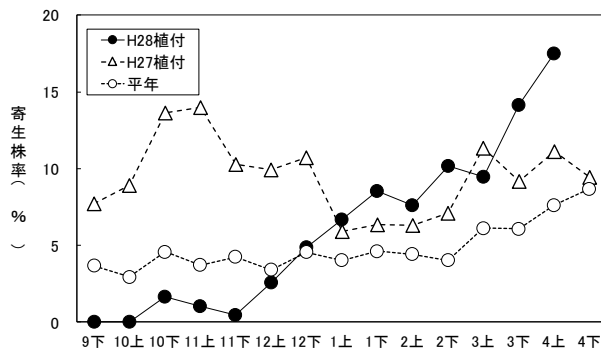


図1 いちご ハダニ類 寄生株率の推移  
 平成:H18~H27の平均値(最大・小値除く)  
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H27の平均値

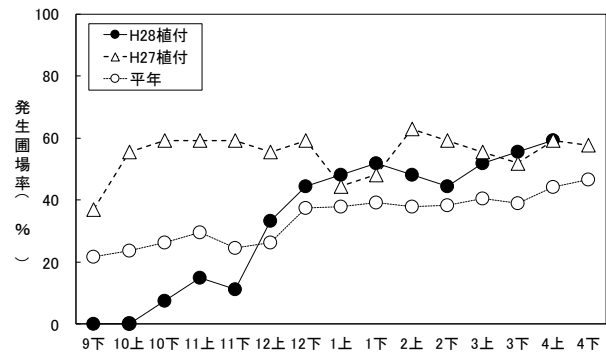


図2 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移  
 平成:H18~H27の平均値(最大・小値除く)  
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H27の平均値

#### 4. 防除対策

- (1) 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。特に「ゆめのか」は「さちのか」よりも茎葉が繁茂しやすいため、農薬が葉裏まで十分かかるように留意する。なお、古葉を摘葉後に防除すると効果的である。
- (2) 既に多発している圃場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の付着むら等で効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら数回散布する。
- (3) 薬剤感受性が低下しやすいので、系統の異なる薬剤(平成29年長崎県病虫害防除基準P210~213の「作用機構による分類(IRAC)」参照)をローテーション散布する。本県の薬剤感受性については、病虫害防除所ホームページのいちごのナミハダニ薬剤感受性検定結果参照。なお、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤は、卵に対する効果が低いので5~7日おきに連続散布を行う。
- (4) 天敵(チリカブリダニ等)を放飼している圃場は、発生状況に応じて天敵に影響の少ない殺ダニ剤を使用する。

- 
- 病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。  
「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
  - この情報に関するお問い合わせ  
長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027

